

Message 20

徳島県教育委員会では、震災発生10日目から宮城県女川町に教職員を派遣した。活動の拠点となったのが、女川第二小学校。

職員室の一角に女川町教育委員会が置かれ、遠藤教育長(当時)の「教育は立ち止まってはならない」のかけ声のもと、津波被災地としては最も早く学校再開を果たした。

阿部清司先生は、女川第二小学校の教頭として全国各地からの支援の申し出に丁寧に対応し、その支援を活かして、子どもたちに元気を与えつづけた。

写真は、オランダからの支援でフラワーアレンジメント教室を開催したときの様子。

Message 21

株式会社東海新報社は、岩手県大船渡市にあり、旧気仙郡の2市1町(大船渡市、陸前高田市、住田町)を対象に1万7000部を刊行する日刊紙である。

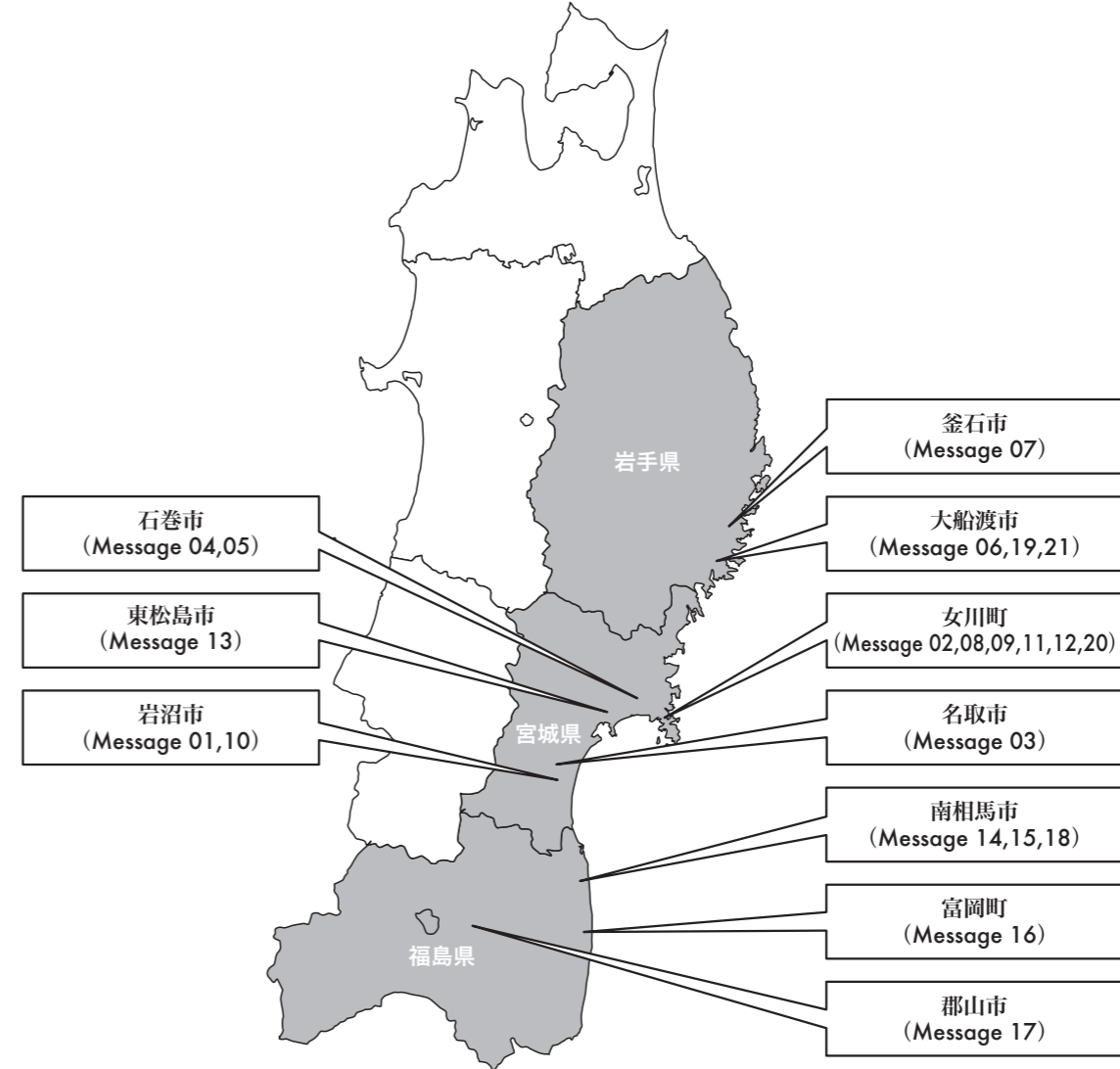
チリ地震津波で被災した経験を活かして高台に社屋を移転し、さらに自家発電機を装備していたことが役立ち、東日本大震災では震災翌日の3月12日に、カラーコピーで作成した号外を発行した。この号外は社員が歩いて避難所に配布し、情報が決定的に不足する中、被災地の人々の心の支えとなった。

写真は、2011年4月1日付の紙面に掲載された瓦礫の町を背にした笑顔の子どもたち。



震災1年後の春 宮城県石巻市日和山公園
One year after the earthquake, spring Hiyoriyama park, Ishinomaki, Miyagi

掲載した「命言」関係地図





mei gen shu
東日本大震災 被災地からの「命言集」

企画 徳島県教育委員会
取材編集 大西浩正 井利元裕哉 上田真依子 坂部由香里 千崎律子 福田純代 稲谷未由
(徳島県教育委員会学校政策課)
協力 徳島県警察本部、陸上自衛隊徳島駐屯地第14施設隊、岩手県教育委員会、大船渡市教育委員会、
大船渡市立第一中学校、株式会社東海新報社、宮城県教育庁、岩沼市立玉浦小学校、
女川町立女川第二小学校、福島県立小高商業高等学校、森本晋也(岩手県教育委員会)、古積昇、
榎田竜路・石山静香(特定非営利活動法人復興支援メディア隊)

発行日 2013.3.11
印刷製本 有限会社 三星堂印刷所 [徳島県鳴門市撫養町黒崎字松島237]

「命言」を掲載させていただいた方については、本文中に所属氏名を記載いたしました。

徳島県教育委員会

Tokushima Prefectural Board of Education

2013.3.11